

（仮称）寒川町公共施設等総合管理計画 内部策定委員会（中間案）のポイント

☆ 現状と課題 ☆

1. 公共施設等の老朽化・更新・財源問題
2. 「人口減少・少子高齢化社会」に見合った公共施設等の最適配置

課題の解決に向けて、次の
3つに取り組みます

1. 学校を地域コミュニティの核として位置づけ、複合化を推進 します

- 小学校は半径 1.5 km、中学校は半径 2 kmで町内全域をカバーする配置で、町民にとって利用しやすい状況です
- 学校に行政機能の一部を置くことで、町民の利便性の向上を図ります
- 学校を地域活動等の拠点とすることで、地域全体で学校の子ども達を見守り、育みます
- 災害時の広域避難場所及び避難所として、地域の防災拠点を確保します

2.（仮称）健康福祉総合センター用地には、単独の保健福祉施設

としてではなく、行政の複合化施設として建設します

- （仮称）健康福祉総合センターの機能の一部を学校に置くことで、町民の利便性の向上と（仮称）健康福祉総合センターの総量を抑制します
- 学校に行政機能を複合化することで、町民の利便性の向上と役場庁舎の総量を抑制します
- （仮称）健康福祉総合センターと役場庁舎等の複合化施設とすることで、共用スペースを創出し、施設の効率化と有効利用を図ります

3. 町営プールを廃止し、学校プールを一般利用できるよう改修

します

- 町営プール利用者の約50%が小学生、約10%強が幼児で、その対象者への対応が必要です（大人は約30%、中高生は約5%）
- 町民から、小学生及び幼児が利用できるプールの要望もあります
- 学校プールに幼児用プールを設置して、一般の利用ができるよう改修します
- 町営プールは学校プールとのトータルコストを比較・検討した結果、廃止します
- 学校プールは、災害時の防火用水・生活用水としての機能も期待されます



☆ 結 論 ☆

公共施設等の複合化・多機能化・共用化を推進するとともに、
住民福祉の維持・向上を図り、もって課題を解決します